会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 平成３０年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  Ⅰ．教職員の資質能力向上の推進　（ⅱ）教職員研修プログラムの構築事業 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回学習評価研修WG |
| 開催日時 | 2018年9月19日 15時〜17時 |
| 場所 | リファレンスはかた近代ビル 1Ｆ 107 |
| 出席者 | 委員：岡村慎一、植上一希、佐藤昭宏、小田茜、瀧本知加、佐伯京子、森佳奈枝  請負業者：飯塚正成 |
| 議題等 | ①調査結果の共有  ・概ね調査項目として「育成したい人材像」「育成したい能力」「育成したい能力とカリキュラム・授業の関係」「授業や実習の評価にかかわる課題認識」とした。  (1)KBC学園（植上）  ・教育改善の大枠は、人材像設定→能力設定→教育内容編成→教育効果の測定（評価）→教育・授業改善の手順で行われている。  ・IRCの取組はグッドプラクティスとして教育・授業改善の１つのモデルとなると考えている。  ・IRCで重視されているのが「人間性」教育である。  ・専門学校教育において、職業教育を通じた人間性教育はさらに重要になってくると思われるが、その言語化・体系化が求められる。  ・IRCは、企業連携という観点からインターンシップはじめ試行錯誤を積み重ねており、人材像設定から教育実施までのプロセス綿密に作成されている。  (2)麻生塾（佐藤）  ・人間性教育を重視している。  ・就職に関する指導は個々人の希望に寄り添う形で行われている。  ・人間性の能力育成は、カリキュラム内では「グローバルシティズンベーシック」を通して行うことが中心。  ・国家試験合格に向けたカリキュラムマップは作られているが、「人間性」教育も含めたカリキュラムマップ作製は今後の課題。  ・「人間性」等の能力育成が必要であると感いているが、技能ではない部分の科目が少ない。この点は今後の課題。  (3)YICグループ（調査課題認識として）（瀧本）  ・教員自身が教育改善していくためのしくみづくりを可能とするプログラムが必要である。  ・業界の評価が教育の評価を規定するため「逆向き設計」が必要となる。  ・教育目標及びそれを達成するためのより具体的な目標が設定され、それがどう達成されたかをとらえるための「学習評価」が求められる。  ・実習と座学の理論の接続性が明確になれば問題は改善される。  ・実習以外の授業が、パティシエになるためのどの部分を担っているのかを把握する必要がある。そのためにはカリキュラムマップが必要となる。  ②基礎編で必要なこと  ・人材像設定→能力設定→教育内容編成→教育効果の測定（評価）→教育・授業改善という構造を認識してもらう必要がある。  ・この全体像の認識をしてもらい、その中での「評価」や授業改善を考える。  ・視察結果として能力設定から教育内容編成をする部分について特に難しいと感じている。  ・時系列のカリキュラムマップを作成するとともにコア科目の重要性を確認する必要がある。  ・学科・学校のカリキュラム等と関連させて、個々の授業改善につなげていく必要がある。  ③今後のスケジュール  ・11月5日　時間・場所は追って連絡。 |

以上